

問 市立「さつき園」の
民営化は責任放棄では

答 専門知識のある
法人への移管を検討中



山下 由美

問 「さつき園」は32年前に住民の強い要望によって、旧山崎町立の知的障害者授産施設として出発しました。なぜ公立のままではダメなのでしょうか。

市長 専門のノウハウを持った社会福祉法人の方が、保護者により安心してもらえる。そういう移管先が見つからなければ市でやっていきます。

問 障害者自立支援法施行後、施設に入るお金が激減しています。理念だけではやっていけず、市は法人への補助を考えていますか。

市長 経営が成り立つようには支援していく必要があると考えています。

問 市の行政改革大綱にある市立保育所の民営化は、保育水準の低下につながりませんか。

市長 詳しく調査しながら対応したいと思うが、低下につながるとは考えていません。

問 国民健康保険は、公的医療保険であり「金を払えないなら医療を受けさせない」という資格証明書の発行の在り方は、根本から見直すべきです。今すぐにも、国保滞納世帯の子供の医療は保障すべきでは。

市長 国から通達があったこともあり、12月1日より中学生以下の子供がある世帯に、短期保険証を発行し、医療が受けられるようにしています。

編集後記

幸運の象徴・四葉のクローバーも四年近くになって、立派なささゆりに成長し、山裾の道べにしなやかな花を咲かせました。

市当局も議会も、ささゆりのように純粋無垢な行政に向かって努力しておりますが、昨今し尿券問題が取り沙汰され、喧々諤々、議論の応酬です。罪を看過することはできませんが、お互いに違いを認め合い、補い合うことで進歩発展があるはずです。

今期議会の任期も今年5月半ばとなっており、次回の議会だよりは次の新しく選出された委員さんの手によるものになります。

— 編集委員一同 —

